

～農業と余暇のメリハリを大切に～ 西野洋一、孝志さん親子（大洲市）

（洋一さん）1948年生まれ
名誉農業指導士、元JA愛媛たいきトマト部会長
（孝志さん）1978年生まれ
元大洲市青年農業者協議会長



☆経営概況☆

親子で、施設野菜（トマト25a、すいか10a）を経営の柱に、ほうれんそう、大根、さといも等を組み合わせ、年間を通じて収入が確保できる作付けを行うとともに、家族経営協定を締結し、役割分担、収益の分配等を明確にしています。

また、産地の維持、地域農業の発展に向け、JAの部会活動をはじめ、地域の食育活動等にも積極的に取り組んでいます。

☆ここがポイント☆

■トマトのブランド化と積極的な新技術等の導入

（父：洋一さん）地元の農業高校卒業後、野菜農家の後継ぎとしてトマト栽培に取り組んできました。その間、土壌分析に基づいた施肥管理の実施、マルハナバチや防除用ロボット等新技術の率先した導入等により、低コストで効率的な経営を心がけてきました。またJAのトマト部会発足時から、役員として部会員の協調を大切に活動し、冬春トマトの指定産地化や安心・安全にこだわった「エコラプトマト」のブランド化に尽力しました。

■何事にも積極的な父の姿を見て自分も農業の道へ

（息子：孝志さん）子供の頃から父の姿を見て「いずれは自分も農業を」と考えていましたが、「一度は別の環境に身を置いてみたい」という思いもあり、父もそれを勧めてくれたため、会社員生活を送った後、25歳になるのを機にUターン就農しました。現在、JA愛媛たいきのトマト部会青年部員として「エコラプトマト」の魅力を直接消費者の皆さんに伝えるPR活動や品質・食味を更に向上させるための新たな土壌改良資材の研究等に取り組んでいます。



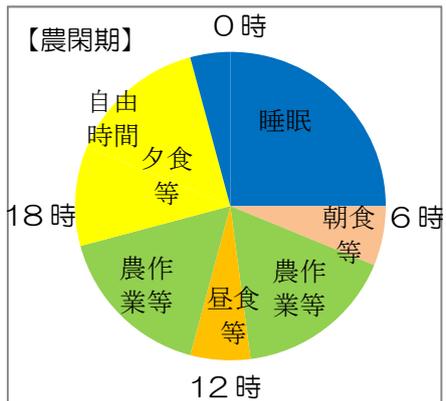
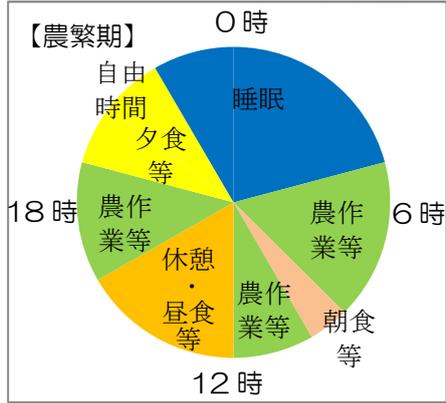
環境に優しく愛情を注いで栽培管理した「エコラプトマト」



今年のJAトマト品評会、愛たい菜の消費者の皆さんの投票で1位をW受賞しました。



【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

（洋一さん）モットーは「農業と余暇のメリハリの利いた楽しい生活！」です。息子にも「仕事も全力ですが、遊ぶ時も全力で遊べ。」と言っています。趣味はゴルフと釣りで、ゴルフで息子と一緒にラウンドするのも楽しみの一つです。

（孝志さん）年間を通じて何らかの作業はありますが、父の言うように遊ぶ時はきっちり遊んでいます。まだ結婚したばかりなので夫婦二人の時間を大切にしています。父と同じゴルフと釣りが趣味なので、一緒に出掛けることもあります。

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日
トマトの収穫時期等の農繁期は、常時、様々な農作業がありますが、基本的に土曜日は休日としています。						
← 農閑期には、事前に調整してまとまった休みを取り、旅行に出かけたりしています。 →						



トマトのジェラート、美味しいですよ。



JA トマト部会青年部の皆さん。



ゴルフと釣りが共通の趣味です。

☆これからの夢や目指すもの☆

■経営移譲により新たな展開を！

（洋一さん）息子の方がゴルフが上手になってきたので、経営移譲してゴルフの練習に行こうと思います（笑）。それは冗談ですが、自分が農業を始めて50年、息子も一人前になってきたので、経営移譲にはいいタイミングかなと思っています。若い発想で新しいことに挑戦して欲しいです。

（孝志さん）まだまだ父に教わることは多いですが、施設の規模拡大と作業の効率化、低コスト化を進めるとともに、JAトマト部会の活動においても6次産業化の取組み等を推進し、我が家の経営の発展・安定及び産地力の強化に繋がりたいと考えています。

☆農業を目指す方へのメッセージ☆

■農業は楽しくやりがいのある職業です！

（お二人から）農業をやっていると大変なこともあります。自分が頑張った分だけ成果が現れるので、やりがいや楽しさ、達成感を感じることができます。ある程度時間の自由がきくところも魅力です。農業で充実した生活を目指してみませんか。